

プロジェクト B

バイオマス

〈第4回〉
毎月第1・3週掲載



飼料化施設の
外観

環境テクシス

環境テクシスは、食品残さの肥飼料化事業を核に、豊富な知識と技術力でコンサルティング業務、肥飼料の成分分析事業なども手掛け、順調に事業の幅を拡大している。今年3月には、従来の産廃に加えて一般廃棄物処分業の許可も取得。今後は当面、幅広い原料を受け入れて液体飼料化事業に注力する方針だ。高橋社長は、高い専門性と柔軟な発想力を武器に、新たな食品リサイクル事業を切り開く。



環境テクシス
代表取締役社長
高橋 慶氏

前職では水処理プラントメーカーに在籍していたそうですが、高橋 大学の農学部農

関する仕事があったという思いが強くなったため、脱サラして起業しました。

まず、馴染みのある汚泥の肥料化に着手。2005年に有機肥料「ゆうぎのフスマ」を開発しましたが、苦労したのは産廃処分業の許可取得です。取得ま

コストかけず技術力で勝負

高い食R知識が強みに

「でに1年半かかり、本格稼働できたのは07年。その後、08年には酒かすや小麦粉など飼料化の開始、09年には豊川第2工場を開設するなどして、事業を拡大してきました。」

「これまでの研究経験が、コンサルや肥料の分析事業などに生かされているんですね。高橋 施設にコストを



高橋 もとと食品には強い興味があり、その成分等には詳しくは詳しく。これは分析事業だけで

「このような買い取りを含めた各種相談は、全国の排出事業者から入ってきます。そこで現在、産廃業者との連携を強化して全国ネットワークを構築するための体制を整えています。当社は、設備や処理に関するノウハウを持つているので、現地の業者・農家とのマッ

処理料が高く取れるわけでも、製品が高く売れるわけでもない。売り上げに対して減価償却の割合が高いので、設備投資は極力抑えたいと厳しいと見えています。

そのため当社は、技術力とノウハウを重視。施設にはお金をかけず、科学的見地に立ってリサイクルを進めるとともに、飼料・肥料も農家での使用方法にまで立ち入って製造するなど、コンサルを含めた事業展開としています。

代表者	高橋慶代表取締役社長
設立	2005年
資本金	1300万円
所在地	愛知県豊川市
事業内容	リサイクル飼料・肥料の製造販売 環境コンサルティング 環境分析 産廃処分

会社概要